

畑石議員（自民議連）

平成 29 年 2 月 27 日

知事答弁実録

（健康福祉局）

（教育委員会）

（問）乳幼児期における親と過ごす時間の育ちへの影響について

広島県においては、子育て支援と銘打ち、親への就労支援については積極的に行い、これを裏付けるようなアンケート等を取っているが、「一定年齢までは自分で育てたい」といったニーズを把握するアンケート調査を行った結果を見たことがない。

広島県においては、このようなニーズは、極めて少数派になるということなのか、また、乳幼児期における親と過ごす時間の育ちへの影響についてどのように考えているのか、併せて知事に伺う。

（答）

子供の健やかな成長のためには、親からの愛情あふれる触れ合いや語りかけなどにより、しっかりと親子の絆を育むことが非常に重要であり、乳幼児期は、その土台となる大切な時期であると認識しております。

本県では、女性の育児休業取得率は概ね 90%以上の水準となっており、子供が一定の年齢になるまでの間、育児に専念したいと考える女性は多いものと考えております。

また、乳幼児期における親と過ごす時間の育ちへの影響につきましては、平成 27 年度の教育委員会の調査によりますと、子供と接する時間が少ないことに対して不安を抱えている保護者が一定程度いるという結果になっております。

親子の絆の形成には、女性も男性も子育てを共に担い、分かち合うことが重要であると考えておきまして、長時間労働を前提とした働き方の見直しや男性も育児休業を取得しやすい職場環境の整備も重要なことと考えております。

今後も引き続き、子供の育ちに視点を置き、保護者が子育てに十分かかわることができ、次代を担う子供たちが健やかに成長する広島県の実現に全力で取り組んでまいります。